

平成27年はみかわ誕生60周年を記念し、たくさんの事業が行われてきました。11月8日にその最後を飾るみかわ秋まつりで行われた「奥泉光×いとうせいこう文芸漫談シーズン4 IN 三川」の前段として奥泉光さんといとうせいこうさんとの町長対談を行いました。

奥泉さんにとってのふるさと三川町に対する思い、そしていとうせいこうさんが考える地方が生き残る道とは？

コーディネーター 鈴木孝純教育長（以下、教育長）…奥泉さんは三川町の出身ですが、これからの三川町にこのようなまちづくりをしてほしいという願いはありますか。

奥泉光（以下、奥泉）…三川町に限定せず、庄内という規模で考えると、その魅力は「人がやわらかい」とかだと思います。他人への思いやりや優しさのある人が多い。この庄内のいいところが失われてしまうのは悲しいので、それを維持できるまちづくりをしてほしい。

また、地方と比べると東京には若い人が多いですが、潜在的には地方に行きたいと思っている人は結構いると思います。それを庄内の「人の優しさ」で引きつけることができればいいですよ。

いとうせいこう（以下、いとう）…東京で生まれ育った自分もここ最近の東京はすざんである感じを受けますね。例えば、電車に乗ったり道を歩いたりして人にぶつかったり謝らなければいけません。昔の東京はこんなことはなかった。これは若い人も感じてのことだと

教育長…お二人は大学で教鞭をとられていますが、これから生きる若い人に求めることはありますか。

奥泉…生き延びるための力をつけてほしいと思います。学力だけでなく、総合的な力、人間力を身につけてほしい。カリキュラムに沿って勉強することだけがその人の力になるとは限りません。

教育長…柔軟性をもつことが重要だということですね。ただ、人間の幅を広げるためには、最低限教養的な教育も必要ですね。

奥泉…確かに必要ですね。そういう意味では大学教育は教養を学ぶ空間を提供する場であり、そこでどんな授業が行われているかはあまり重要ではありません。その空間で学生同士が、または学生と教員がどれだけ言葉を交わし、議論し対話をしているかが大事です。それはまちづくりでも同じで、住民同士が対話や交わる場をどれだけつくれるかが大事だと思います。

教育長…今の子どもたちに求める人間像はありますか。

いとう…現代社会がギスギスし

思うので、今は地方のチャンスだと思っています。

また、高齢者がどんどん増えている現在、年金が少なくないアパートも借りられず、下流老人と呼ばれてしまう世の中になっていきます。高齢者は畑を耕したり土に触れたり、外出することやうづつにならなくなる。これから地方は、どれだけ手厚いサービス（土地や住まい等への支援）をしているかをアピールすることで高齢者が移住し、そこに福祉系の労働が生まれ若者が働きに来るといふ流れをつくるのがよいと思います。いきなり若い人を呼ぼうと思っても東京にかなうわけがないので無理でしょう。

教育長…都心の高齢者を地方に移住させるような話はニュースなどで聞きますが、町長の考えはどうですか。

阿部誠町長（以下、町長）…団塊の世代が75歳（後期高齢者）になる、いわゆる2025年問題で都市も地方もだんだんと高齢者の人口が増えてくる。現在でも入る施設がない高齢者がたくさんいるので、これから地方が介護福祉の受け皿を担う時代

はくるでしょう。いとう…すでに介護施設はパンク状態ですからね。リタイアした人が東京以外でどこにいかうかと考えた時に、家賃や物価が安いところより、高齢者が畑があつてそこで自分で作った野菜を食べて安心して生活したいと思つているのではないのでしょうか。結局は死ぬまでいたいところというのは「気持ち」で呼んでくれるところだと思います。現に自分の親がそういうところに行けば安心できますね。「高齢者は三川町に行く」とハッピーになる」というモデルケースを全国に先駆けてつくつた方がいい。奥泉…いとうさんのモデルケースを実現するためには移住者を受け入れるよいネットワークが必要です。ネットワークの質は住む人にとって重要なことですよ。

いとう…自分の親の話をすると、85歳になる親で、以前マンションに入っていたことがあつたのですが、隣の人や地域と全く関わりをもたなくなつてしまっています。同じ現象が東日本震災の被災地でも起こっています。同じような場所、同じような部

ている感じがするので、本来もつている子どもたちの自由が削られてしまつていいることがあまりにもつたない気がしますが、奥泉…子どもの可能性を信じてあげればいんだと思います。大人は子どもの潜在的な力を削がないでやるべきです。

町長…お二人がおつしゃつている個性をのぼすということは公的な教育機関では難しいかもしれませんが、でも、私自身その必要性は感じていて、成人式でも成人者には、これからの生活で人との対話やつながりも大切にしていかならばならないと切に思っています。また、都会の方々が「地方でいいところがあれば」と思つてくれるのなら、地方出身者もつとそその思いを強くもつてくれればうれしですね。

いとう…東京の人でも生まれた区にずつといる人はいない。誰だつて生まれたところにずつといたくはないけど、ゆくゆくはやつぱり戻つてくる。東京の人ですらそうなので、山形の人だつて同じよと思ひます。ずつといさせようというのがそもそも無理があることだし、その人

の見聞も狭くなるので結局町のためにならないと思います。教育長…これからの地方を担うためにどんな人材が必要でしょうか。

奥泉…どんな人材が必要かはあらかじめわからないことではないでしょうか。今は人も多様な時代で、みんながみんな同じ人はいないので、さまざまな考えをもつ人がどのように組み合わせるのかが大切ですよ。理想を掲げて「こういう人がいい」という人がたくさん集まつてもいいものができるかといつたらそうではないですね。

いとう…それはつまらない町になつてしまふと思ひます。受け皿をつくれれば人は入つてくるのに、人をなんとかしようと思つているから受け皿に入る人もこぼれていつてしまふ。受け皿を上手につくつた町が勝つと思ひます。

教育長…最後に、奥泉さんのふるさと・三川町に対する思いを聞かせてください。

奥泉…これからも三川町のいいところである人柄のよさをなくさない、保持できるような町であつてほしいです。



田田の宿 なな味にて



いとうせいこう氏 鈴木 孝純教育長 奥泉 光氏 阿部 誠町長